

除雪対策に関する提言書

令和6年4月10日

美唄市集落支援員

提言

1、登録制度

有償・登録の仕組みを作り、共助の除雪体制を推進することが必要。(チケット一部自己負担、登録制、業務委託)

2、 間口除雪の改善

- ① 「歩道除雪路線を除く」を撤廃する。
- ② 玄関車庫など最大2ヶ所に増やす。
- ③ 処理雪が自己所有地で処理できない場合も、空き地の活用で対象にして欲しい。

3、排雪回数を増やす。

4、雪捨て場の確保として、空き地の活用。

⇒空き地に捨て場所を作る。

例：空き地の持ち主に対し固定資産税を割引する、空き地利用者は草刈り、ごみ拾い等、良好な関係作りに努める。

報告書

1. 調査の名称

令和5年度美唄市除雪実態調査

2. 調査目的

豪雪地帯に住みながら年齢を重ねても、将来ともに暮らし続けることができるよう、降雪の処理に関する現状を把握し、見えてくる課題を分析して改善策につなげるため、実態調査を実施する。調査後は除雪に関するアンケート調査検討委員会にて取りまとめ報告書を作成し、自助・互助・共助・公助それぞれの層で必要な取り組みや住民の支え合い活動等へつなげることを目的・目標として実施する。

3. 実施主体

美唄市集落支援員

4. 協力

美唄市 美唄市社会福祉協議会 美唄市民生児童委員協議会連合会

5. 調査対象

集落支援員で協議・選定した地域に住む高齢者（概ね70歳以上）

6. 調査件数（目標）

令和5年度 500世帯程度

7. 調査方法

集落支援員が協力団体や関係者と連携しながら対象世帯を訪問し、アンケートを用いて、聞き取り方式で調査を行う。

8. 調査期間

令和5年7月7日から11月1日

9. 調査項目

別紙除雪に関するアンケートの通り（美唄市集落支援員「除雪アンケート調査検討委員会」作成。）

10. 別紙資料アンケート集計結果

11. 回収状況

回答件数（目標）：500件 有効回答数 385件 有効回答率 76%

12. 結果

- 家の間口と家の周りや窓周りの除雪は、自分で行う方が多い。
- 高齢者は間口の除雪に関する不安や意見がある。
- 置き雪を捨てる場所がなく困っているという意見が多い。

13.分析

【共助・互助・自助でそれぞれできること、考えられること】

共助	・互助	自助
<ul style="list-style-type: none">・高齢者の間口除雪に対する不安や意見が、市民の中で広く共有されている。・除雪ボランティア活動。	<ul style="list-style-type: none">・公助を補完する役割として、有償・登録の除雪派遣事業の実施。	<ul style="list-style-type: none">・業者への依頼。・家族、近親者の協力。・危険を感じたらためらわず行政に相談。・悪天候の時はなるべく外出しない。

14.考察

- ・高齢者に寄り添った除雪施策が必要であり、実施には市民と行政の協力が不可欠である。
- ・雪捨て場の確保が必要であり、行政が介入し確保を行う可能性がある。
- ・市の間口除雪の見直しには時間と周到な準備が不可欠だが改善する必要がある。

参考例で深川市は令和3年度事業から歩道除雪路線の間口も対象としている。三笠市は1万円～2万円の納入で玄関から公道まで（おおむね幅1メートル、長さ10メートル程度）の除雪を行っており、赤平市や岩見沢市は業者等に支払った除雪費の2分の1を助成している（1世帯2万円を上限）。

提言

以上の結果からそれぞれに必要なことをまとめましたが、少子高齢化、人口減少が急速に進む本市において将来的には家族や近親者、近所の協力、ボランティアの確保などは自助、共助のみでは除雪の対応は困難だと予想されます。

間口除雪の改善、雪捨て場の確保、除雪派遣事業の実施につきまして、行政が主となり私たちを含めた関係機関と対策を協議いただき、住民が地域でできる限り住み続けることができるよう特段の配慮をお願いします。